

# 港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX 045-531-9561 mail info@kouhoku-saibora.net

HP <http://www.kouhoku-saibora.net>

2016年4月



横浜市港北区ミズキ

\*入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

## 2016年度が始まります

# どのような連絡会になるかは、会員の あなたが決める！あなたで決まる！

前回の定例会で2015年度の総括をそれぞれが行いました。各タスクの総括も出揃いました。それをもとにした新方針作りが始まります。長く会長を務めてこられた井上会長や書記の和田さんが辞意を表明し、事務局で頑張ってくれた山本さんも異動になり、2016年度は新しい形での出発となります。会員一同でがんばって新しくつ作り出す連絡会にしていかなければなりません。しかしあれだけ甚大な被害を出した東日本大震災ですら被災地外では忘却が進んでいる中、地域で防災活動を進めていくことの難しさがありません。だからこそ知恵と力を発揮しなければなりません。連絡会には障害当事者団体やそれを支援する団体が多く参加しています。定例会で行っている災害手話などはその特性を生かした活動と言えます。団体はそれぞれの特性を持っていますから、それを連絡会活動に活かすことで、いざという時に力を発揮できる筈です。

このように個人、団体それぞれが持っている力を積極的に発揮することでしか連絡会は機能しません。あなた任せではない、参加して得する、力を与えられる連絡会を作る話し合いをしましょう。

## 「高校生の福祉防災研修交流会」に 武相高校が参加

連絡会セミナーで発表してくれた武相高校が、かながわ災害ボランティア主催の会で石巻や県内高校と交流しました。担当の宮越先生からのお便りです。

3月19日(土)、20日(日)に行われたNPO法人神奈川災害ボランティアネットワーク主催の「高校生の福祉防災研修交流会」に本校の生徒4名が参加しました。

19日は鶴見総合高校で、20日は横須賀高校で開催されたこの研修会は東日本大震災の津波により多数の生徒が犠牲になった宮城県石巻西高校の2年生を招き、県内の高校の防災への取り組みや、ボランティア体験などの発表を通じて防災について考えるというものです。

石巻西高校の生徒の東日本大震災での体験談

は、生徒も初めて聞く被災者の生の声で感じるものが多かったようです。「当たり前な生活が一番の幸せです。」という言葉には、防災についてしっかり考えなくてはいけないというメッセージがこめられていました。

グループごとに自分の防災に対する備えを発表したり、ボランティアに行ってきた学校の体験談を聞いたり、学校ごとの防災の取り組みについて学んだり、防災カルタを作成したりと学ぶことが多い時間となりました。



## 第11 回定例会報告

日時：2016年3月16日（水）10時～

会場：港北区福祉保健活動拠点多目的研修室

出席者：井上会長、港北区ボランティア連絡会、国際救急法研究所、聴覚障害者協会、どろっぶ、あじさいの会、ガールスカウト 21 団、富士塚ボランティアグループ、横浜北部失語症友の会、仲手原マザークラブ、梅の会、個人5名、事務局矢崎、片桐

### 議題

#### 1 次年度計画等

##### (1)新年度役員候補について

役員会で検討の結果、新年度候補を以下のとおりとした。会長白井副会長、副会長国際救急法研究所の宇田川さん、書記ボーイスカウトの中島さん、監査ボラ連の村野さん。総会で決定する。

##### (2)次年度日程について

- ・11 回の定例会のうち3回を夜間開催とする。
- ・セミナー、シミュレーションは11月27日、2月19日の日曜日開催とする。

##### (3)ボランティア保険について

登録担当の小澤さんまで連絡すること

#### 2 会議、イベント報告

(1)3月14日横浜災害ボランティアネットワーク会議全体会、参加者白井、宇田川、山本（事務局）

①「横浜市防災計画（震災対策篇）における災害ボランティアについて」半浦淳氏（横浜市市民局）防災ボランティアが防災計画にどのように位置づけられているかの説明があった。

##### ②グループディスカッション

テーマ1：地域防災拠点や他の避難場所、避難生活の場からのニーズ把握について

テーマ2：災害ボランティア活動をおこなうために平常時から備えておくべき資機材は何か。資機材の確保・調達方法について。

市からも拠点関係者へ災害ボランティアと連携するように働きかけて欲しいと要望した。

(2)4月24日白幡小学校でのボーイスカウト8団バザーへの出席者確認

付岡、小澤、佐藤、片桐参加予定

#### 3 災害手話

「東日本大震災から5年経ちました。」「今警報が鳴っている」「早く逃げる」「避難場所分かりますか」

4 2015年度振り返りのアンケート記入

5 タスクごとの振り返り 以上

## 5年目の3月11日

満5年となる今年の3月11日でした。東北を始め各地で様々な行事が組まれました。しかし阪神淡路大震災に比べ人々の記憶から遠ざかる早さが桁違いに早い感じがします。経済的な悪化が原因で今の生活課題の方が大事、という意識も影響しているようですが、災害ボランティア団体はこのような風潮に対して有効な発言をしていかなければなりません。

港北区でも「エネルギーと災害」のイベントがあり、2時46分に会場の図書館では黙祷がおこなわれま

した。横浜港では氷川丸や帆船日本丸の汽笛に



よる「祈りの汽笛」が鳴りました。

## 福島県、久之浜花供養

東日本大震災から5年の今年、各被災地では慰霊の催しが行われました。福島県いわき市の久之浜でも3月6日に東日本大震災追悼の花供養が行われました。

久之浜町はいわき市の北にあり、震災では270戸の家屋が津波で全半壊し、43名の方がたがお亡くなりになりました。津波の際に火災も発生して町の惨状は目を覆うものでした。

小島悦子さんが代表の千日紅の会は、地域のお母さんの集まりですが、震災1周年から全国に呼びかけてお花を集めて慰霊の花供養を行っています。私も参

加したかったのですが、体調が悪かったので、お花だけ贈らせていただきました。





後日、小島さんからお礼の手紙をいただきました。

3月6日(日)、久之浜にて無事「追悼花供養」を執り行うことができました。

これもひとえに様々な形で支えてくださった多くの方々のお陰と、心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

全国から約5千本のお花と温かなメッセージが久之浜に届きました。

震災から5年経過した今もなお想いを寄せご支援くださる皆様に対し、

改めて感謝する地元住民の方の声が多く聞かれました。そのような想いに勇気をいただき、

久之浜のまちも明るい未来に向けて一步一步進んでいるように思います。

「千日紅の会」代表 小島悦子

## 新会員紹介

小松尚子 (フォーラム・アソシエ認定食のコーディネーター・日本災害食学会専門員・介護食士)

子育て支援の活動をしています。活動のきっかけは夫の研修の為、当時4歳と、9か月の子供達を伴い2年間デンマークに滞在した折、北欧の豊かな食と人々の温かさ、そして高福祉に、心も生活も助けられた感謝の気持ちからです。

子育ての後、親の介護中も心に寄りそってもらう事、健やかな食は人を支える力になると思いました。震災時の報道で、弱い立場の方々の食が気になったことから私ができる事として家庭での防災食に取り組み始めました。

もしもの時、家族を自力で守り、飢えさせない為、そして食による二次的な健康被害を防げるよう備蓄品で出来る、災害食調理の勉強会を開催しています。

今まで自助の立場から考え個人活動を続けてまいりましたが、港北災ボラに参加させて頂き団体としての活動からこの一年間、多くを学ばせて頂きました。特にチームで常総市避難所に伺った折、沢山の立場の方ともお会いし、共助、公助との連携を大切に思いました。

これからも人に寄り添う食育基本に活動して行きたいと思っています。

活動歴

2014年9月 新潟県主催防災フェア「にいがた

災害食グランプリ」にて「きざみ糸瓜の果汁三色団子」で審査員特別賞受賞、2016年震災対策技術展(パシフィコ横浜)において日本災害食学会法人企画レシピ提案及び試食作製

## 社会福祉法人かれん理事長 新堂泰江

私たち「かれん」は障害福祉の事業所です。92人がケアホーム、放課後支援、日中活動の場所を利用しています。東日本大震災の時には、ケアホームや放課後支援の取り組みはまだありませんでしたが、この日は港北区作業所連絡会の交流会がラポールであり、一部の人たちが参加していました。帰りは他事業所の送迎車に乗せていただいたり、迎えに行ったりしました。一方、「かれん」で活動していた人たちは、いつもどおり一人で帰ったり、家まで送ったり、「かれん」でお迎えを待つ人などバラバラな対応となり、家族の方々からおしかりを受けました。その反省から緊急時や災害時は近隣の小中学校と同じように、利用者は迎えがくるまで「かれん」で待つ事に決めました。

命を守ることを第一にして、年に2回の防災訓練、防災用具や備蓄品の点検などをしてはいますが、どのような形で災害に襲われるのか全くわからないところが難しく不安です。災害時に「かれん」が危険な状態であれば港北公会堂へ避難すると決めています。避難場所は大綱小学校ですが、全員で歩いて行く事は私たちにとっては大変難しいので、公会堂へ避難する事を利用者や家族の方々にも伝えていきます。様々な形の応援が必要な私たちですから、連絡会への参加で「かれん」の存在を知ってもらい、情報や知恵や工夫を得るきっかけにしたいと考えています。



4月定例会は20日(水)10時より

総会に向けて大事な新年度方針の討論です。

## イベントタスク反省

見学ツアーは危機管理産業展見学とそなエリア見学とそれぞれ有意義な内容だった。

セミナーは幅広い年齢層からの活動報告を聞いてよかった。

## PR タスク反省

- 1、通信は今年度毎月発行が出来た。原稿を連絡会メンバー、外部の人からも頂く事が出来た。
- 2、通信についてのアンケートを実施した。もっと読みやすい紙面作りを目指す。
- 3、外部団体行事への参加はPR タスク以外のメンバーも参加して欲しい。

## シミュレーションタスク反省

今年のシミュレーションには他区の災ボラの方も多数参加していただいた。ただ準備に時間をかけずに実施したので、準備不足でバタバタしてしまう部分があった。

また本来、連絡会会員は一般の参加者に教えるべき立場であるのに、どうしていいかわからない会員が多数見受けられた。連絡会会員のコーディネート能力向上は1日きりのシミュレーションだけでは不十分であると感じられた。毎月の定例会においても、コーディネート能力の向上を図りたい。

## BOSAI くらぶ 訪問！

3月21日連絡会会員でもある港北区地域子育て支援拠点「どろっぷ」のBOSAI くらぶを訪問しました。

「どろっぷ」は利用登録をした未就学児(主に0～3歳児)とその保護者が、無料で利用できる施設です。毎日多くの方に利用されています。その利用者さんの自主活動の一つとしてBOSAI くらぶの活動があるそうです。

この日は乳幼児を連れて12、3名のお母さんとボランティアさん数名の参加でした。主なメニューは「ダンボールを使って簡易トイレを作る」「ビニール袋とタオルで、おむつを自作してみよう」でした。同時に「避難訓練シナリオおよび防災カルテ」のパンフも配布されました。

断水により、トイレも流せなくなった場合、

トイレの便器にビニール袋や市販のトイレセットなどをセットすることもできますが、便器が使えなくなることも考えて「簡易トイレを作ろう」そして現在はほとんどが紙おむつ、布おむつやおむつカバーが手元にないことも考えられ、紙おむつの不足が予想されます。そこで、「おむつを自作してみよう」を今回取り上げたのではないかと思います。このように体験してみることで、子供さんの年齢や体格で、大人とは違ったサイズのトイレを作ったり、今使っている“オマル”をもう少し保管しておこうか、汚物をどう処理したらよいかなど考えるきっかけになったと思います。

このあと「どろっぷ」で月1回行われている防災訓練が行われました。「どろっぷ」に来ている人65人ほどが前庭に避難し、点呼が行われました。その後の話し合いでは、「子供を連れ荷物を持ち履物をはいて、避難するのはとても大変だった」との声がありました。でも、ここで何回か体験している人たちは、荷物を「どろっぷ」に準備されているビニール袋にひとまとめにして、防災ずきんを子どもにも自分にも素早くかぶせ避難できていました。

しかし心配なこともありました。ここを利用している方々の多くが、町会やマンションなどの管理組合に入会していない。だから被災した時にどうしたらよいかの情報をもっていませんでした。災ボラは被災した時にボランティアセンター設置も役割と思いますが、地域の皆さんに情報を伝えていく大切な役割があるのではないかと改めて思いました。(付岡)

### 編集後記

☆新年度になり、災ボラも多くのメンバーが交代しました。新しい革袋に美味しい新酒を仕込めるよう頑張りたいですね。(宇田川)

☆今年度から高田東小地域防災拠点運営委員会の副委員長を務める事になりました。拠点と災ボラの連携をいっそう深めるように努力していきたいと思います。(山本)

☆陸前高田のドキュメンタリー映画「あの街にさくらば咲けば」の最終上映会に参加しました。この映画が見られなくなるのは残念ですが、見た人の心の中に「桜」はこれからも咲き続けるはず／これからも応援していきたいです。(山口)